

1. プログラム名称
市立旭川病院総合診療専門研修プログラム
2. 専攻医定員
<p>1年あたり（ 1 ）名 （×研修期間年数＝総定員 3 名）</p> <p>原則1学年あたり2名とするが、増員を希望する場合はプログラム申請書 A の別紙 5 に理由と共に定員希望数を記載すること。</p>
3. プログラムの期間
（ 3～4 ）年間
4. 概要
<p>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長</p> <p>旭川市を中心とした道北地域の関連施設および北海道家庭医療学センターの関連施設で総合診療専門研修を行う。基幹病院である市立旭川病院および旭川医大病院救急部と、北海道内の地域密着型の有床あるいは無床診療所で構成され、あらゆる地域医療の学習の場を提供している。</p>
<p>B. プログラムの理念、全体的な研修目標</p> <p>国内では専門医志向の高まりに合わせて、各臓器別領域では目覚ましい発展を遂げている一方、社会の高齢化に伴って複数の問題を抱えた患者を横断的に診療できる総合診療医の需要が高まっている。医学生・研修医の間でも総合診療を志す者が増えつつあるが、その育成を担う教育の場はいまだ少ない。本プログラムでは、道内の医療過疎地域においても複数の問題を抱える患者・家族および地域住民に対して横断的医療と患者教育を提供でき、北海道内の地域医療を支える医師を育成することを目標とする。</p>
<p>C. 研修期間を通じて行われる勉強会・カンファレンス等の教育機会</p> <p>（例）定期的な TV 会議システムによるカンファレンス・経験省察研修録（ポートフォリオ）勉強会や作成指導等 各協力医療機関との間で行われるテレビカンファレンスや、各医療機関で行われる総合診療症例検討会、救急症例検討会、CPC、感染対策講演会、医療安全講演会、緩和ケア講習会・勉強会、臓器別専門医が開催する各種勉強会、プライマリ・ケア関連の研究会・学会活動、ポートフォリオ発表会など。</p>

D. ローテーションのスケジュールと期間

(4年以上のプログラムの場合は、枠を増やして4年目以降のローテーションについても記載すること)

1年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	市立旭川病院											
	領域	総合診療専門研修Ⅱ						内科 (内科専門科から選択)			小児科		
2年目	施設名	総合診療専門研修Ⅰ											
	領域	北海道家庭医療センター											
3年目	施設名	旭川医大			市立旭川病院								
	領域	救急科			内科(2, 3カ月ごとに各内科専門科から選択)								
4年目	施設名	市立旭川病院 その他						市立旭川病院					
	領域	その他						総合診療専門研修Ⅱ					

特記事項 ()

1年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	市立旭川病院											
	領域	総合診療専門研修Ⅱ						内科 (内科専門科から選択)			小児科		
2年目	施設名	東川診療所						旭川医大			市立旭川病院		
	領域	総合診療専門研修Ⅰ						救急科			内科 (内科専門科から選択)		
3年目	施設名	市立旭川病院											
	領域	内科(内科専門科から選択)						その他					

特記事項 ()

※ 代表的な例を書いてください。募集定員全員のローテーション表は不要です。

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (12) カ月			総合診療専門研修Ⅱ (12) カ月			
領域別 研修	内科 (12) カ月	小児科 (3) カ月	救急科 (3) カ月	その他 (6) カ月			

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (6) カ月		総合診療専門研修Ⅱ (6) カ月	
領域別 研修	内科 (12) カ月	小児科 (3) カ月	救急科 (3) カ月	その他 (6) カ月

※ローテーションする施設によって研修期間が異なる場合（例えば、総合診療専門研修ⅠがA診療所なら6ヶ月、B診療所なら9ヶ月など）、これらの表はコピー&ペーストして複数作成してください。

※「総診Ⅰ」、「総診Ⅱ」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

※整備基準にある「平成30年度からの3年間に専門研修が開始されるプログラムについては、専門研修施設群の構成についての例外を日本専門医機構において諸事情を考慮して認めることがある。」との規定を踏まえ、3年間の研修プログラムにおいても、最大6か月間の選択研修が認められます。ただし、その場合でも、各研修科の研修期間の要件を満たすことが必要です。

※「総診Ⅰ」と「総診Ⅱ」を同時に研修することはできません。また、原則として異なる医療機関での研修を実施する必要があります。

※原則として、都道府県の定めるへき地に専門研修基幹施設が所在するプログラム、あるいは研修期間中に2年以上のへき地での研修を必須にしているプログラムにおいて、ブロック制で実施できない合理的な理由がある場合に限り、小児科・救急科の研修をカリキュラム制で実施することが認められます。該当する場合は、特記事項に詳細を記入してください。

5. 準備が必要な研修項目	
地域での健康増進活動	
実施予定場所 (市内住民センターなど))
実施予定の活動 (地域住民に対する出張健康講座の開催))
実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか (総合診療専門研修Ⅱの期間))
教育 (学生、研修医、専門職に対するもの)	
実施予定場所 (市立旭川病院内))
実施予定の活動 (学生・研修医を対象としたケースカンファレンスの開催))
実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか (総合診療専門研修Ⅱの期間))
研究	
実施予定場所 (市立旭川病院内、各学会会場など))
実施予定の活動 (症例報告や臨床研究の報告、医学論文の作成など))
実施予定時期 ※どのローテーション中に実施するか (特に期間は問わない))

6. 専攻医の評価方法（各項目を満たすとき、を塗りつぶす（のように））

※形式的評価と総合的評価を研修修了認定の方法も含めて具体的に記入してください。

形式的評価

- 研修手帳の記録及び定期的な指導医との振り返りセッションを定期的実施する（頻度： _____ ）
- 経験省察研修録（ポートフォリオ）作成の支援を通じた指導を行う（頻度： _____ ）
- 作成した経験省察研修録（ポートフォリオ）の発表会を行う（頻度： _____ 参加者の範囲： _____ ）
- 実際の業務に基づいた評価（Workplace-based assessment）を定期的実施する（頻度： _____ ）
- 多職種による 360 度評価を各ローテーション終了時等、適宜実施する
- 年に複数回、他の専攻医との間で相互評価セッションを実施する
- ローテート研修における生活面も含めた各種サポートや学習の一貫性を担保するために専攻医にメンターを配置し定期的に支援するメンタリングシステムを構築する
- メンタリングセッションは数ヶ月に一度程度を保証する

総合的評価

- 総合診療専門研修 I・II の研修終了時には、研修手帳に専攻医が記載した経験目標に対する自己評価の確認と到達度に対する評価を総合診療専門研修指導医が実施する。
- 内科ローテート研修において、症例登録・評価のため、内科領域で運用する専攻医登録評価システム（Web 版研修手帳）による登録と評価を行う。研修終了時には病歴要約評価を含め、技術・技能評価、専攻医の全体評価結果を内科指導医が確認し、総合診療プログラムの統括責任者に報告する。
- 3ヶ月の小児科の研修終了時には、小児科の研修内容に関連した評価を小児科の指導医が実施する
- 3ヶ月の救急科の研修終了時には、救急科の研修内容に関連した評価を救急科の指導医が実施する
- 以下の基準でプログラム統括責任者はプログラム全体の修了評価を実施する
 - (1) 研修期間を満了し、かつ認定された研修施設で総合診療専門研修 I および II 各 6 ヶ月以上・合計 18 ヶ月以上、内科研修 12 ヶ月以上、小児科研修 3 ヶ月以上、救急科研修 3 ヶ月以上を行っており、それぞれの指導医から修了に足る評価が得られている
 - (2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した経験省察研修録（ポートフォリオ）を通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達している
 - (3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達している
なお、研修期間中複数回実施される、医師・看護師・事務員等の多職種による 360 度評価（コミュニケーション、チームワーク、公益に資する職業規範）の結果も重視する

研修修了認定の方法（総合的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー）

修了判定会議のメンバー

- 研修プログラム管理委員会と同一
- その他（ _____ ）

修了判定会議の時期（ _____ ）

7. プログラムの質の向上・維持の方法**研修プログラム管理委員会**

- 委員会の開催場所（ 市立旭川病院内 _____ ）
- 委員会の開催時期（ 年 2～3 回程度 _____ ）

専攻医からの個々の指導医に対する評価

- 評価の時期（ ローテーション終了時 _____ ）
- 評価の頻度（ ローテーション終了毎 _____ ）
- 評価結果の利用法（ プログラム管理委員会へ報告 _____ ）

研修プログラムに対する評価

- 評価の時期（ プログラム終了時 _____ ）
- 評価の頻度（ プログラム終了毎 _____ ）
- 評価結果の利用法（ プログラム管理委員会へ報告 _____ ）

8. 専門研修施設群

基幹施設の施設要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））

総合診療専門研修Ⅰの施設基準を満たしている。

総合診療専門研修Ⅱの施設基準を満たしている。

大学病院で研修全体の統括組織としての役割を果たしている、あるいは適切な病院群を形成している施設である。

研修施設群全体の要件。

総合診療専門研修Ⅰとして、のべ外来患者数 400名以上／月、のべ訪問診療件数 20件以上／月である。

総合診療専門研修Ⅱとして、のべ外来患者数 200名／月以上、入院患者総数 20名以上／月である。

小児科研修として、のべ外来患者数 400名以上／月である。

救急科研修として、救急による搬送等の件数が1000件以上／年である。

地域医療・地域連携への対応

へき地・離島、被災地、医療資源の乏しい地域での研修が1年以上である。

具体的に記載：

施設名（上川医療センター） 市町村名（上川町） 研修科目（内科） 研修期間（12か月）

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月

基幹施設がへき地※に所在している。

へき地※での研修期間が2年以上である。

具体的に記載：

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月

施設名（ ） 市町村名（ ） 研修科目（ ） 研修期間（ ）か月

※過疎地域自立推進特別措置法に定める過疎地域。詳細は総務省ホームページ参照

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm

http://www.soumu.go.jp/main_content/000456268.pdf

9. 基幹施設			
研修施設名	市立旭川病院		
所在地	住所 〒070-8610 電話 0166-24-3181 FAX 0166-24-1125 E-mail		
プログラム統括責任者氏名	鈴木 聡	指導医登録番号	
プログラム統括責任者 部署・役職	総合内科 医長		
事務担当者氏名	尾藤 真紀		
連絡担当者連絡先	住所 〒070-8610 電話 0166-24-3181 FAX 0166-24-1125 E-mail h_kenshu@city.asahikawa.hokkaido.jp		
基幹施設のカテゴリー	<input type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅰの施設 <input checked="" type="checkbox"/> 総合診療専門研修Ⅱの施設 <input type="checkbox"/> 大学病院		
基幹施設の所在地	二次医療圏名 () 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ		
施設要件 (各項目を満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
<input checked="" type="checkbox"/> 総合診療以外の 18 基本診療領域の基幹施設機能を、本プログラム統括責任者が所属する診療科あるいは部門では担当していない (プログラム基幹施設の役割を診療科・部門が兼任していない) <input checked="" type="checkbox"/> 本プログラム以外の総合診療専門研修プログラムを本基幹施設は運営していない <input checked="" type="checkbox"/> プログラム統括責任者が常勤で勤務し、コーディネーターとしての役目を十分果たせるように時間的・経済的な配慮が十分なされている <input checked="" type="checkbox"/> 専門研修施設群内での研修情報等の共有が円滑に行われる環境 (例えば TV 会議システム等) が整備されている <input checked="" type="checkbox"/> プログラム運営を支援する事務の体制が整備されている <input checked="" type="checkbox"/> 研修に必要な図書や雑誌、インターネット環境が整備されている ※研修用の図書冊数 () ※研修用の雑誌冊数 () ※専攻医が利用できる文献検索や二次資料の名称 () ※インターネット環境 <input checked="" type="checkbox"/> LAN 接続のある端末 <input checked="" type="checkbox"/> ワイヤレス <input type="checkbox"/> 自施設で臨床研究を実施したり、大学等の研究機関と連携した研究ネットワークに加わったりするなど研究活動が活発に行われている 具体例 ()			

10. 連携施設	
連携施設名	国民健康保険 東川町立診療所
所在地	住所 〒071-1423 北海道上川郡東川町東町 1 丁目 1 4 番 1 号 電話 0166-82-2101 FAX 0166-82-4635 E-mail
連携施設担当者氏名	古川 倫也
連携施設担当者 部署・役職	副所長
事務担当者氏名	野澤 秀夫
連絡担当者連絡先	住所 〒071-1423 電話 0166-82-2101 FAX 0166-82-4635 E-mail tom-f@mx5.nisiq.net
連携施設の所在地	二次医療圏名 (上川中部) 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	北星ファミリークリニック
所在地	〒070-0824 旭川市錦町19丁目2166番地 電話：(0166) 53-0011 FAX：(0166) 53-2821 E-mail nori8058@hcfm.jp
連携施設担当者氏名	村井 紀太郎
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	北海道家庭医療学センター 事務局・主任 遠藤 杏奈
連絡担当者連絡先	住所 〒007-0841 札幌市東区北41条東15丁目1-18 電話 011-374-1780 FAX 011-722-9387 E-mail a.endo@hcfm.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（上川中部） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	国民健康保険上川医療センター
所在地	〒078-1743 北海道上川郡上川町花園町175番地 電話：(01658) 2-1231 FAX：(01658) 2-3908 E-mail takashi.ando@hcfm.jp
連携施設担当者氏名	安藤 高志
連携施設担当者 部署・役職	院長
事務担当者氏名	北海道家庭医療学センター 事務局・主任 遠藤 杏奈
連絡担当者連絡先	住所 〒007-0841 札幌市東区北41条東15丁目1-18 電話 011-374-1780 FAX 011-722-9387 E-mail a.endo@hcfm.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（上川中部） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

10. 連携施設	
連携施設名	旭川医科大学病院 救急医学講座
所在地	住所 〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1-1-1 電話 0166-65-2111(代表) 0166-68-2852(医局) FAX 0166-68-2699 E-mail sfujita@asahikawa-med.ac.jp
連携施設担当者氏名	藤田 智
連携施設担当者 部署・役職	救急医学講座 教授, 救急科科長, 救命救急センター センター長
事務担当者氏名	旭川医科大学 総務部総務課 臨床研修係 長尾 由紀
連絡担当者連絡先	住所 〒078-8510 電話 0166-65-2111(代表) 0166-68-2852(医局) FAX 0166-68-2699 E-mail nagao@jim.u-asahikawa-med.ac.jp
連携施設の所在地	二次医療圏名（上川中部） 都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である → <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ

※連携施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして列挙すること

総合診療専門研修 I

総合診療専門研修 I の施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
01 北海道	3111082	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	国民健康保険 東川町立診療所	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
01 北海道	3111181	<input checked="" type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	国民健康保険 上川医療センター	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
01 北海道	2917323	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	医療法人 恵心会 北星ファミリークリニック	<input type="checkbox"/> 基幹 <input checked="" type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携

総合診療専門研修 I を行う施設ごとの詳細

研修施設名	国民健康保険 東川町立診療所		
診療科名	() ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 (19) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	古川 倫也	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件			
後期高齢者診療			
<input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において患者の 10%以上が後期高齢者である			
学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ)			
<input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において患者の 5%以上が学童期以下である			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は 5%未満だが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は 5%未満だが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか ()			
<input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は 5%未満であり、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 ()			
学童期以下の患者の診療実績 ()			
学童期以下の患者の診療を増やすための工夫 ()			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (24 時間電話連絡可)			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (担当患者を継続的に診療等)			

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略（ 外来、健診、予防接種、病棟、在宅等 ）</p>
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略（ 特別養護老人ホーム回診等 ）</p>
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況（ 町で唯一の医療機関であり、様々な年齢層が受診 ）</p>
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（ 地域ケア会議に参加等 ）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（ 週1回 ）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>■のべ訪問診療数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （ 院内勉強会、ケースディスカッション、カルテチェック等 ） 他の施設で行う教育・研修機会（ ）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数（ なし ） プログラム名（ ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）</p>

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

研修施設名	国民健康保険 上川医療センター		
診療科名	（総合診療科） ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<p>■診療所 □病院</p> <p>施設が病院のとき → 病院病床数（ ）床 診療科病床数（ 19 ）床</p>		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6-12 ）カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<p>■配置あり □配置なし 常勤指導医なしの場合</p> <p>■都道府県の定めるべき地（8. 研修施設群参照）の指定地域である</p> <p>その場合のサポート体制（ ）</p>		
研修期間の分割	<p>■なし □あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい （ ）</p>		
常勤指導医氏名1	安藤 高志	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名2	平野 嘉信	指導医登録番号	（ ）
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	（ ）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<p>研修の内容</p> <p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど</p> <p>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</p> <p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>			

施設要件

後期高齢者診療

■研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている

学童期以下の診療（以下のうち一つを選ぶ）

■研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている

□学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する

□学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する

具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか（)

□学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない

経験を補完できない理由（)

学童期以下の患者の診療を経験するための工夫（)

■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている

具体的な体制と方略（外来・訪問患者の病状が変化した場合は電話相談を24時間受付。外来患者は必要に応じて近隣の連携病院での救急外来受診で対応し、訪問患者は宅直医による緊急往診を行う。専攻医も外来・訪問患者双方の24時間対応を行う）

■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する

具体的な体制と方略（外来患者は緩やかな主治医制、訪問患者はチーム制で診療を行う。各専攻医の学習テーマに合致した患者を継続して診療を行う）

■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当

具体的な体制と方略（救急患者や生活習慣病患者の診察、検診や予防接種、訪問診療での緩和ケアの実践により、全ての年齢層に対する医療提供実践を行う）

■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する

具体的な体制と方略（周囲の医療機関との紹介/逆紹介、また訪問看護ステーション・介護保険事業所との電話や定例会議などにおける密な連携を行っている。専攻医も個別事例のコンサルテーションや会議参加を行う）

■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する

具体的な状況（小児思春期の患者さんとその親の世代、高齢者とその子の世代が受診する。家族構成員は電子カルテ内の家族図でそれを確認することができ、専攻医は特に同一家族構成員が受診した際には積極的に診療を経験する）

■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する

具体的な内容と方法（町内会での健康講話・保健師との協働による地域へのアプローチ等を通して地域指向型ケアを実施する）

■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している

それぞれの概ねの頻度（在宅支援診療所として、ケアマネージャー・訪問看護師と連携し急変や看取りにも24時間対応している。専攻医も積極的に対応にあたる）

診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））

■のべ外来患者数 400名以上/月

□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している

具体的な体制と方略（)

□のべ訪問診療数 20件以上/月

■上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している

具体的な体制と方略（現在、10-15件/月である（別に、町内の特養へは50件/月の訪問を行っている）。今後診療体制変更により訪問診療数増加を見込んでいる。また、件数を満たさない場合は、週に半日、近隣の北星ファミリークリニック（在宅支援診療所。訪問件数430件/月）にて経験の補充を行う）

研修中に定期的に行う教育

当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会

（カルテチェック・外来/訪問患者カンファレンス・定期振り返り・家庭医療学レクチャー）

他の施設で行う教育・研修機会

（特記すべきことなし）

他のプログラムに参加される場合は以下の欄を記載すること

本プログラム以外の参加プログラム数（ 6 ）

プログラム名（松前塾 —ルーラルジェネラリストへの道— ）

プログラム名（国立病院機構旭川医療センター総合診療研修プログラム ）

プログラム名（北海道家庭医療学センター 総合診療専門医コース ）

プログラム名（西淀病院総合診療専門研修プログラム ）

プログラム名（たいしょう生協診療所総合診療専門研修プログラム ）

プログラム名（耳原総合病院総合診療専門研修プログラム ）

研修施設名	北星ファミリークリニック		
診療科名	(総合診療科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 施設が病院のとき → 病院病床数 () 床 診療科病床数 () 床		
総合診療専門研修 I における研修期間	(6-12) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> 都道府県の定めるべき地 (8. 研修施設群参照) の指定地域である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい ()		
常勤指導医氏名 1	村井 紀太郎	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名 3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))			
研修の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加			
施設要件 後期高齢者診療 <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において後期高齢者の診療を受け入れている 学童期以下の診療 (以下のうち一つを選ぶ) <input checked="" type="checkbox"/> 研修診療科において学童期以下の患者の診療を受け入れている <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、施設内に研修診療科以外に小児科外来が存在し、そちらで経験を補完する <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れていないが、近隣の施設において経験を補完する 具体的に、どの施設でどのような頻度で補完するか () <input type="checkbox"/> 学童期以下の患者は受け入れておらず、近隣の施設において経験を補完することができない 経験を補完できない理由 () 学童期以下の患者の診療を経験するための工夫 ()			
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている 具体的な体制と方略 (外来・訪問患者の病状が変化した場合は電話相談を 24 時間受付。外来患者は必要に応じて近隣の連携病院での救急外来受診で対応し、訪問患者は宅直医による緊急往診を行う。専攻医も外来・訪問患者双方の 24 時間対応を行う)			
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する 具体的な体制と方略 (外来患者は緩やかな主治医制、訪問患者はチーム制で診療を行う。各専攻医の学習テーマに合致した患者を継続して診療を行う)			
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当 具体的な体制と方略 (救急患者や生活習慣病患者の診察、検診や予防接種、訪問診療での緩和ケアの実践により、全ての年齢層に対する医療提供実践を行う)			
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する 具体的な体制と方略 (周囲の医療機関との紹介/逆紹介、また訪問看護ステーション・介護保険事業所との電話や定例会議などにおける密な連携を行っている。専攻医も個別事例のコンサルテーションや会議参加を行う)			
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する 具体的な状況 (小児思春期の患者さんとその親の世代、高齢者とその子の世代が受診する。家族構成員は電子カルテ内の家族図でそれを確認することができ、専攻医は特に同一家族構成員が受診した際には積極的に診療を経験する)			

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する 具体的な内容と方法（町内会での健康講話・保健師との協働による地域へのアプローチ等を通して地域指向型ケアを実施する）</p>
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している それぞれの概ねの頻度（在宅支援診療所として、ケアマネージャー・訪問看護師と連携し急変や看取りにも24時間対応している。専攻医も積極的に対応にあたる）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■のべ外来患者数 400名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（)</p>
<p>■のべ訪問診療数 20件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（)</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （カルテチェック・外来/訪問患者カンファレンス・定期振り返り・家庭医療学レクチャー） 他の施設で行う教育・研修機会 （特記すべきことなし）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 (6) プログラム名（ながさき総合診療専門医研修プログラム) プログラム名（国立病院機構旭川医療センター総合診療研修プログラム) プログラム名（北海道家庭医療学センター 総合診療専門医コース) プログラム名（西淀病院総合診療専門研修プログラム) プログラム名（たいしょう生協診療所総合診療専門研修プログラム) プログラム名（耳原総合病院総合診療専門研修プログラム)</p>

総合診療専門研修Ⅱ

総合診療専門研修Ⅱの施設一覧

都道府県 コード	医療機関 コード	へき地・離島、被災地 (該当する場合はチェック)	施設名	基幹施設・ 連携施設の別
01 北海道	2910997	<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地	市立旭川病院	■基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携
		<input type="checkbox"/> へき地・離島 <input type="checkbox"/> 被災地		<input type="checkbox"/> 基幹 <input type="checkbox"/> 連携

総合診療専門研修Ⅱを行う施設ごとの詳細

研修施設名	市立旭川病院		
診療科名	(総合内科) ※病院で研修を行う場合、研修を行う主たる診療科を記載してください。		
施設情報	病院病床数 (478) 床 診療科病床数 (3) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(12) カ月		
常勤指導医の有無	<input type="checkbox"/> なし ■あり 常勤指導医なしの場合 <input type="checkbox"/> へき地・離島であると都道府県により法的に指定されている地区の施設である その場合のサポート体制 ()		
研修期間の分割	<input type="checkbox"/> なし ■あり 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい (前半6か月と後半6か月。特に3年間プログラムの場合内科との同時研修)		
常勤指導医氏名1	鈴木 聡	指導医登録番号	()
常勤指導医氏名2		指導医登録番号	()
常勤指導医氏名3		指導医登録番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
研修の内容			
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する			
施設要件			
■一般病床ないしは地域包括ケア病床を有する ■救急医療を提供している			
病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
■高齢者(特に虚弱)ケア 具体的な体制と方略(疾患以外の健康問題、家族背景、社会的支援に目を向け、介護・福祉機関と連携する)			
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略(総合診療の立場から多面的にアプローチし、必要に応じた専門科へのコンサルトも行う)			
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略(院内の専門科へのコンサルトの他、カバーしきれない範囲は他院専門科コンサルトも可能)			
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略(多職種間での症例の共有と最善の対応についての模索)			
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略(緩和ケアチームとの連携)			
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略(地域医療連携室や市内で構築された医療連携ネットを通じたかかりつけ医との連携)			
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制(往診医の依頼に応じて24時間受け入れ可能)			
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること			
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略(最低週1回の初診外来と救急オンコール当番)			

別添1 専門研修プログラムの概要と診療実績

<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（ 患者の主訴から受診科の特定できない、あるいは専門科不在の主訴に対する対応 ）</p>
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（ 反復することによる基本的対処方法の定着 ）</p>
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（ ケースカンファレンスと抄読会 ）</p>
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（ 基本的には総合内科のみで対処するが、対応困難な場合は迅速な専門科コンサルト ）</p>
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（ 再診および外来症例フィードバックで指導医や他科とも症例を共有 ）</p>
<p>診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））</p>
<p>■当該診療科におけるのべ外来患者数 200名以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ 週5日の初診及び再診外来 ）</p>
<p>■当該診療科における入院患者総数 20件以上/月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ 外来・救急外来からの入院患者と、専門科紹介患者の共有 ）</p>
<p>研修中に定期的に行う教育</p>
<p>当該施設で行う勉強会・カンファレンス・カルテチェック等の教育機会 （総合内科カンファレンス、救急症例検討会、Cancer board、GPC、医局抄読会など。カルテ記載は指導医が全てチェック） 他の施設で行う教育・研修機会 （北海道GIMカンファレンス、IDATEN研究会など ）</p>
<p>他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること</p>
<p>本プログラム以外の参加プログラム数 （ 1 ） プログラム名（ 旭川医科大学病院総合診療専門医研修プログラム ） プログラム名（ ） プログラム名（ ）</p>

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること

領域別研修：内科			
研修施設名	市立旭川病院	都道府県コード 01	医療機関コード 29 1099 7
領域別研修（内科）における研修期間		（ 12 ）カ月	
指導医氏名	斉藤 裕輔		
有する認定医・専門医資格 ※内科に関するもの	日本消化器病学会指導医，日本消化器内視鏡学会指導医，日本内科学会認定医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する			
施設要件			
■内科専門研修プログラムに参加している □基幹施設 □連携施設 □特別連携施設			
■内科学会の認定する指導医が常勤で在籍しており、J-OSLER（専攻医登録評価システム）を使用できる			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科における入院患者総数 40 件以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 1 ）			
プログラム名（旭川医療センター総合診療専門研修プログラム）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

領域別研修：小児科			
研修施設名	市立旭川病院	都道府県コード 01	医療機関コード 29 1099 7
領域別研修（小児科）における研修期間		（ 3 ）カ月	
指導医氏名	佐竹 明	有する専門医資格（小児科専門医） ※小児科に関するもの	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ			
施設要件			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■小児科常勤医がいる。（ 4 ）名			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ外来患者数 400 名以上／月 □上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している 具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 0 ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

領域別研修：救急科			
研修施設名	旭川医科大学病院	都道府県コード01	医療機関コード 80 1021 4
指導医氏名	藤田 智	有する専門医資格（日本救急医学会救急科専門医，日本麻酔科学会麻酔科専門医・指導医，日本集中医療医学会専門医，日本高圧環境・潜水医学会高気圧酸素治療専門医）	専従する部署（救命救急センター）
■研修期間（ 3 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
診療実績（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
■当該診療科におけるのべ救急搬送件数 1000件以上／年			
□上記の要件を満たさないが、他施設との連携で工夫している			
具体的な体制と方略（ ）			
他のプログラムに参加される場合は以下の欄に記載すること			
本プログラム以外の参加プログラム数（ 1 ）			
プログラム名（ 勤医協旭川総合診療プログラム(仮) ）			
プログラム名（ ）			
プログラム名（ ）			

その他の領域別診療科

領域別研修：皮膚科			
研修施設名	市立旭川病院	都道府県コード01	医療機関コード 29 1099 7
指導医氏名	坂井 博之	有する専門医資格（日本皮膚科学会専門医，日本アレルギー学会専門医）	専従する部署（皮膚科）
■研修期間（ 2～3 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
□ ■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な common disease の診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（皮膚科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（皮膚科）科常勤医がいる。（ 2 ）名			

領域別研修：精神科			
研修施設名	市立旭川病院	都道府県コード01	医療機関コード 29 1099 7
指導医氏名	武井 明	有する専門医資格（日本精神神経学会）	専従する部署（精神科）
■研修期間（ 2～3 ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な common disease の診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（精神科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（精神科）科常勤医がいる。（ 4 ）名			

領域別研修： 耳鼻咽喉科			
研修施設名	市立旭川病院	都道府県コード01	医療機関コード29 1099 7
指導医氏名	佐藤 公輝	有する専門医資格（日本耳鼻咽喉科学会指導医）	専従する部署（耳鼻咽喉科）
■研修期間（2～3）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
■総合診療専門研修の経験目標を達成するのに有用な common disease の診療を経験する			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■（耳鼻咽喉科）領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる			
■（耳鼻咽喉科）科常勤医がいる。（3）名			

その他の研修施設（例：臨床疫学などの社会医学の研修や保健・介護・福祉関連の施設等での研修）

領域・分野：			
研修施設名			
指導にあたる医師名		有する資格（ ）	専従する部署（ ）
□研修期間（ ）カ月			
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
研修の内容			
□ 総合診療専門研修のプログラムの理念と合致している			
□ 総合診療専門研修プログラムのカリキュラム内にある研修目標と関連している （具体的な関連性： ）			
指導体制			
□ 研修期間中、該当領域・分野の指導にあたる医師から、適切な指導やサポートを得られる			
□ 研修終了時点で、総合診療専門研修プログラムの関連する研修目標に対応した評価を行うことができる			

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること